

赤松安子 あきこ 女子教育家、社會事業家。慶應元年周防國徳山生れ、大正二年一月一日歿（八五—一九三三）。徳應寺住職赤松蓮城の長女。京都府立第一高等女學校第一回卒業生。二十歳の折、與謝野禮藏の次男照瞳と婿養子に迎ふ。また徳山婦人講習會を興し、翌年私立白蓮女學校開校、更に四年後徳山女學校と改稱して女子教育に従事。二十五歳の時、防長婦人相愛會育兒所を設け、孤兒や女囚の子を引取りて養育し、夫照瞳と共に融和運動にも盡力した。湘筠と號し、漢詩、和歌を能くす。

長男は京教學者赤松智城トシシロウ、次男醫學博士信麿（ベルリンに客死）、三男美術史家赤松義麿、四男社會運動家赤松克麿、長女労働運動家赤松常子皆名を成した。

